

特集

Special Section

「美しい学都」を目指して 進むキャンパス整備

- 岡山大学から世界へ、グローバルに活躍する卒業生
石川 康晴 さん 株式会社クロスカンパニー 代表取締役社長
- 研究室訪問 吉沢 徹 大学院法務研究科准教授
- 岡山大学病院が「臨床研究中核病院」に決定
- 岡山大学病院に総合診療棟が完成
- ロシア落下隕石の分析開始
- 「猿駒曳」「牛」国内最古の絵馬出土
- News & Topics 大学の動き／研究・臨床成果
- 世界で活躍する人材育成へ
「グローバル人材育成特別コース」新設
- 編集後記



市民にも親しまれる
知的かつ魅力的な大学へ

美しい学都を
目指して
進むキャンパス整備

特集
Special Section



森田潔学長が学長就任時に打ち出した、
岡山大学の進むべき方向を示した「森田ビジョン」。
その一つとして掲げる、大学と都市・地域が連携した
新たな「美しい学都」の形成に向けたキャンパス整備が進んでいる。
大学の顔となり、地域のシンボルとなる新たな施設として
今秋には鹿田地区にホール（通称：Jホール）、
来春には津島地区にカフェテラス（通称：Jテラス）が完成する予定。
岡山大学が目に見えて変わる瞬間が近づいている。

●学長に聞く 美しく気品ある キャンパスづくり

学長特別補佐である建築家ユニット「SANAA（サナア）」の妹島和世氏、西沢立衛氏から提言を受けたキャンパス計画がいよいよ実現に向けて本格的に動きだした。今年に入り鹿田地区のホール建設が始まったが、今後どのような流れで施設整備が進み、今ある景観がどう変わるのか。森田潔学長に目指すキャンパス像や将来構想も含めて聞いた。



「森田ビジョンの一つの大きな柱である「キャンパスの創造」。すでに鹿田地区のホール建設が始まり、変化のスピードの速さを感じる。そもそも学長が目指すキャンパスのあり方とは。

私の理想形はオープンなキャンパスにある。その考え方はサナアの2人と共通している。これまでのキャンパスは自分のテリトリーを閉めようとしていたが、それは間違い。大学も病院も特別な場所ではなく、可能な限りオープンにしたい。変化を起こすには発想の転換が必要だ。例えば、広がりのある開放的な空間づくりのために垣根を取ろうと思っても、人が入りやすくなり、治安が悪化するのではないかといった意見がある。それは逆で、垣根中を見えなくするほど治安は悪化し、むしろ

見える方が犯罪は減ると考える。また、キャンパス整備にお金をかけるよりもっと研究費に充ててほしいといった声も聞かれる。大学の本質は教育と研究であり、もちろん研究費も大切だが、キャンパス整備にも投資しなければ大学の将来はない。ゆとりと潤いのある、美しく魅力的なキャンパス環境をつくらなければ、いい研究者もいい学生も集まらないと思う。変化が速いと言うが、私の描いたタイムスケジュールではすでに鹿田地区のホールが目に見える形になっているはずで、半年から1年近く遅いペース。変化を起こすのは想像以上に難しいが、目に見える形になることでみんなのイメージがどんどん膨らみ、納得して変化への抵抗感がなくなっていくことだろう。

「福武教育文化振興財団副理事長の福武純子氏からの寄付があり、鹿田地区にホール、津島地区にカフェテラスをつくる「Jプロジェクト」が本格始動した。寄付を受けることになった経緯とは。

2010年2月に直島であったARTプログラムセミナーの食事会で現在の許南浩副学長と福武氏が話す機会があり、その後、学長に就任することになって私も加わり、鹿田地区にホール、津島地区にカフェテラスをつくるという話がまとまった。福武氏からは10億円の寄付があり、ホール建設に8億円、カフェテラス建設に2億円を充てる。キャンパスの新たなシンボルになり、私が目指す「美しい学都」を進めるための「仕掛け」になればと期待している。

「ホールはどのような建物になるのか。どう活用していくのか。」

高さの異なる7枚の屋根スラブによって構成し、メインのレクチャーホールを含め3つのホール（計450席）、コモンズスペース、屋根下広場などを設けるが、空間を明確に区切らず、開放的な建物にする。オープニングセレモニーは11月10日開催予定。医学部には学会やセミナーなどを開くのにふさわしい場所がないため、当初は医療系の

ためのホールをつくるつもりだったが、福武氏と話すうち、そういったホールではなく、市民が気軽に行けるような、いわば「ミニ市民会館」にしたいと考えるように。市民が医学とは関係なく、文化のために入って来られる場所になればいいなと思っている。隣接する医学資料室・研究棟が医学部の雰囲気を保っており、一方、解剖実習棟は新棟移転に伴い2年後になくなるため、空間がより広く感じられるはず。

「ホール完成により、鹿田地区が大きく変わる。」

これで終わりではない。ホールができるのと同時に医学部正門をぜひ変えたいと思っている。今は「ここは医学部ですよ」と主張するような閉ざされたイメージが強く、地域に開かれたホールと相反する。病院と医学部の入口の一体感を図りながら市民が気軽に立ち寄れる雰囲気にした。



J Hall



▲(内観図)：SANAA 提供

◀今秋、鹿田地区に完成するホール（通称：Jホール）のイメージ図（外観図）：SANAA 提供

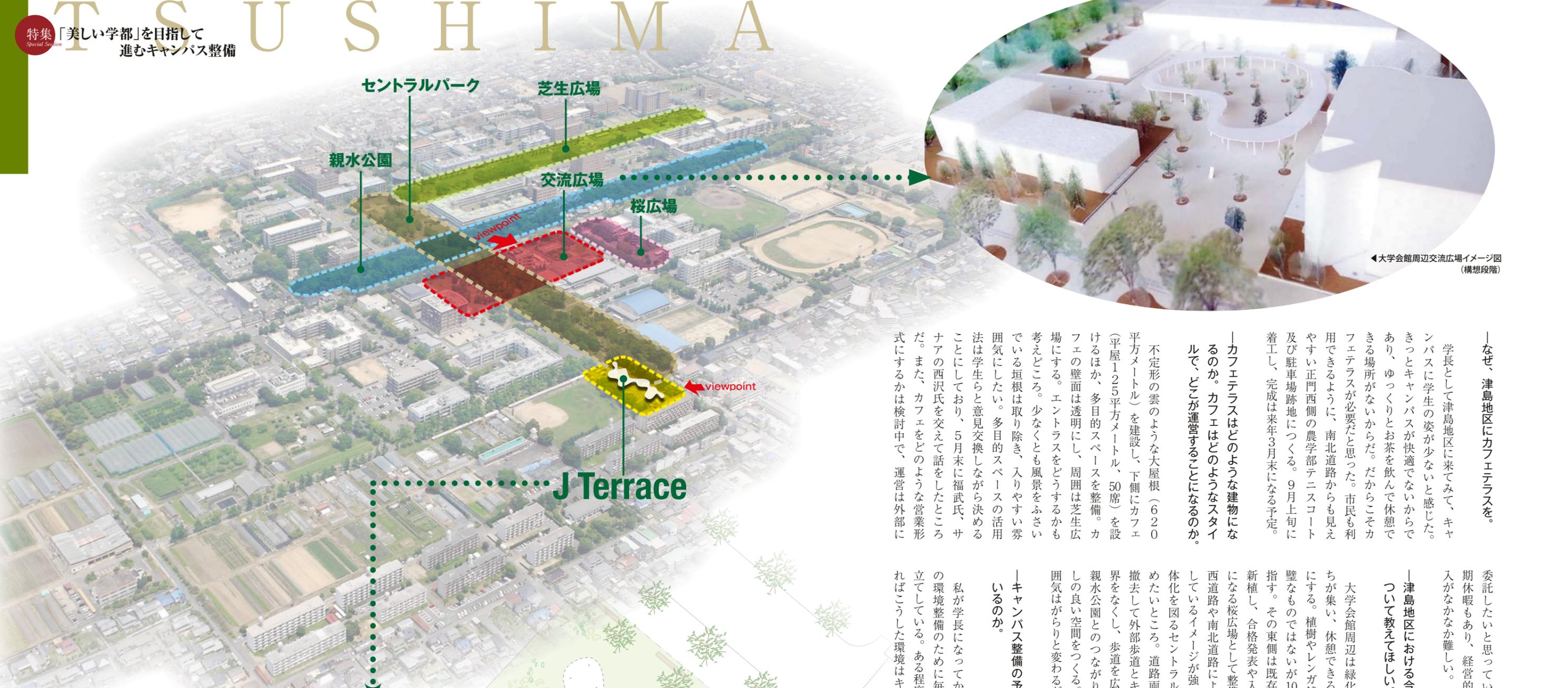
●Interviewer



いちよう並木編集長
後藤 邦彰
(工学部教授)



副編集長
原田 和往
(法学部准教授)



◀大学会館周辺交流広場イメージ図 (構想段階)

「なぜ、津島地区にカフェテラスを。学長として津島地区に来てみて、キャンパスに学生の姿が少ないと感じた。きつとキャンパスが快適でないからであり、ゆつくりとお茶を飲んで休憩できる場所がないからだ。だからこそカフェテラスが必要だと思った。市民も利用できるように、南北道路からも見えやすい正門西側の農学部テニスコート及び駐車場跡地につくる。9月上旬に着工し、完成は来年3月末になる予定。」

「カフェテラスはどのような建物になるのか。カフェはどのようなスタイルで、どこが運営することになるのか。」

不定形の雲のような大屋根（620平方メートル）を建設し、下側にカフェ（平屋125平方メートル、50席）を設けるほか、多目的スペースを整備。カフェの壁面は透明にし、周囲は芝生広場にする。エントラスをどうするかも考えどころ。少なくとも風景をふさいでいる垣根は取り除き、入りやすい雰囲気にした。多目的スペースの活用方法は学生らと意見交換しながら決めることにしており、5月末に福武氏、サナアの西沢氏を交えて話をしたところだ。また、カフェをどのような営業形式にするかは検討中で、運営は外部に

委託したいと思っているが、大学は長期休暇もあり、経営的観点から業者参入がなかなか難しい。

「津島地区における今後の整備計画について教えてください。」

大学会館周辺は緑化を進め、学生たちが集い、休憩できるような交流広場にする。植樹やレンガ舗装などをし、完璧なものではないが10月末の完成を目指す。その東側は既存の桜を移植しつつ新植し、合格発表や入学式の時期に絵になる桜広場として整備する。また、東西道路や南北道路によって三つに分離しているイメージが強いキャンパスの一体化を図るセントラルパーク計画も進めたいところ。道路両側にある垣根を撤去して外部歩道とキャンパス内の境界をなくし、歩道を広くする。そして、親水公園とのつながりを持たせ、見通しの良い空間をつくる。キャンパスの雰囲気はがらりと変わるだろう。

「キャンパス整備の予算はどうなっているのか。」

私が学長になってから森田ビジョンの環境整備のために毎年2億円を予算立てしている。ある程度お金をかけなければこうした環境はキープできないし、

キャンパス整備を加速させるにもやはりお金は必要だ。グリーンを維持するためのお金を捻出したいと思っている。

「学内には意外と知られていない魅力的な場所が多い。市民に開かれた大学へ、もっと見せる工夫が必要だ。」

ほかの大学から岡山大学に来た人は今の状態でさえ「岡山大学は広くていい」と感心してくれる。新幹線駅から近く、都市部の真ん中にこれだけ広大なキャンパスを持つ大学はほかにはなく、生かさず手はない。学生の課外活動スペースも美しく整備し、農学部の農場も隔離するのではなく、市民が楽しめるようにしっかりと活用したい。町内会とも連携し、国道53号からの学筋にもっと大学の雰囲気を持たせたいとも思っている。見せる工夫はもちろん、美しく気品あるキャンパスづくりを進めるうえでの仕掛けも大切だ。



▲来春、津島地区に完成するカフェテラス（通称：Jテラス）の模型





株式会社クロスカンパニー代表取締役社長 ◆岡山大学経済学部卒

石川 康晴

I S H I K A W A Yasuharu

小学校5年生から一人で服を買いに行くほどの洋服好き。
14歳で「洋服屋をやる」と決断して以来、
服飾関係一筋に生きる。
現在は本社のある岡山と本部のある東京、
中国間を忙しく飛び回る。

- ▶いしかわ やすはる (42歳)
- 1970(昭和45)年 岡山県岡山市生まれ
- 1994(平成6)年 岡山県にクロスカンパニー創立
- 1995(平成7)年 有限会社クロスカンパニー設立
- 1999(平成11)年 岡山で主力ブランド「earth music&ecology」1号店オープン
- 2000(平成12)年 東京・原宿に進出
- 2004(平成16)年 香港へ同社ブランド展開
- 2008(平成20)年 台湾現地法人設立(台北)
- 2011(平成23)年 中国現地法人設立(上海)
- 2013(平成25)年 岡山大学経済学部卒

考え改め組織変換

起業したのは23歳の時、コンセプトは「身の丈」です。貯金だけでやりくりし、岡山市北区表町に4坪の店を出しました。欧州から服を仕入れるセレクトショップでしたが、創業5年目に製造から小売りまで一貫して行う組織に変換これが今のクロスカンパニーにつながっています。

組織変換の理由は社員の大量退職。東京への出店計画を伝えたところ、13人中10人が辞めてしまいました。売上げが伸び悩んだ時期と重なり、社員はこのままでは成功しないと分かっていたのです。これを機に、仕入れから作る会社へ▽高級ではなく手の届きやすい商品▽奇抜ではない定番の服へ▽と自分の考えを改めました。すぐに全店舗で閉店セールを実施。そこで得たお金を岡山駅前の店舗に集約し、現在の主力ブランド「earth music&ecology」を立ち上げました。

中国はアパレル五輪

国内販売は順調に伸び、海外に進出。台湾では3年連続、中国も初年度から黒字を達成しました。海外進出の上で痛感したのは「経営者が自ら現地に住む」ことの大切さ。中国には欧州、米国、アジアなど世界中からアパレル企業が進出し、あたかも「アパレル五輪

誰かと何かを、
共感♡したい。

earth
music & ecology

株式会社クロスカンパニー

本社：岡山県岡山市
本部：東京都港区
事業内容：アパレル衣料品、雑貨の企画、製造、販売など
売上高：639億円(2013年1月期)
社員数：2,612人(2013年5月末)

店舗数は国内に約550店、海外は中国大陸と台湾に計約60店、タイに6店、シンガポールに2店。日本と米国に子会社も持つ。



クロスカンパニー岡山本社▲

のような状態です。私は去年9月の反日デモ時も中国に留まり、同月に7店舗を出店。北京の店では売上げ目標を達成しました。メディアを通して見る中国では日系不買運動が起きているかのようにしたが、当社のターゲットの20代の若者は気にした素振りがありませんでした。リーダーには情報を本物が偽物が見分ける力が求められます。

全人種を尊敬する

海外展開成功の鍵は「ダイバーシティ(多様性) マネジメント」。中国人、台湾人だからこうなどという概念があると能力をうまく引き出せません。宗教、文化、価値観などを尊重するスタンスを見せることが重要。日本人はイメージだけで話をしがちですが、全人種を受け入れ、尊敬する気持ちが必要だと思えます。

当社にもグローバル人材が1%ほどいます。この社員には英語

かも、ダイバーシティマネジメン
ト力も求めています。ただ、残り
99%の社員に英語を覚えろと言っ
つもりはありません。地元を愛す
る人は地元で、東京が好きならば
東京で頑張ってもらえばよく、そ
れぞれの夢やライフプランを実現
していくのも私の仕事。デザイ
ナーを目指す社員がいれば一品番
だけでもデザイン画を描かせて商
品化します。モチベーションをい
かに高めるかも意識しています。

岡山からグローバルへ

2020年までは「日中集中戦
略」を進めます。中国には今年40
店舗、来年60店舗、再来年からは
100店舗ずつ出店していく計画
です。ファッション業界は欧米に
憧れを持ちがちですが、憧れだけ
ではビジネスはできません。利益
を追求し、勢いのある中国、東南
アジアで生産・交流することがス
テークホルダー(企業の利害関係
者)に喜んでもらう一番の近道だ
と考えています。

3年後には国内外合わせ年商
2千億円が目標。まずはアジアで
最終的には世界中で名の知れたア
パレル会社になります。本社を東京
に移すつもりはありません。「岡
山からグローバルへ」。この思い
を持ちつつ日々励んでいきます。

「高度な知の創成と的確な知の継承」一。
岡山大学の理念のもとに教育・研究を展開する
個性あふれる教員たち。研究室を訪ねる。

研究室
訪問

吉沢

大学院法務研究科准教授

徹



YOSHIKAWA Toru (43歳)
 ▶1969年 滋賀県蒲生郡日野町生まれ
 ▶1992年 名城大学法学部卒
 ▶1997年 司法試験合格
 ▶2000年 検察官任官
 ▶2006年 検察官退官
 森脇法律事務所(岡山市) 弁護士
 ▶2009年 岡山大学大学院法務研究科非常勤講師
 ▶2010年 同研究科 准教授
 ▶2012年 同研究科 准教授、のぞみ法律事務所長

弁護士、吉沢徹准教授 組織内弁護士育成に力

大学において、理論と実践の架け橋となる“実務家教員”。現役弁護士で、大学院法務研究科の吉沢徹准教授はその一人だ。司法試験合格を目指す学生たちへの指導に加え、昨年12月には学内に開設した「のぞみ法律事務所」の所長に就任。新人、若手弁護士を「組織内弁護士」に育成しようと尽力している。



法務研究科の模擬法廷室

理論と実践の架け橋 実務家教員

平成9年に司法試験に合格し、検察官として多くの刑事事件に携わった吉沢准教授。被告人の罪を追及する日々の中、犯罪被害者の権利を救済する力になりたいと平成18年、弁護士へ転身。以来、被害者支援をはじめ、

OATCで 新人弁護士らを教育

さまざまな弁護士業務を請け負う吉沢准教授が、ニーズの高まりを実感するのが、企業や病院、自治体などに所属して組織内で生じる法的問題に対処する

大学挙げて育成体制

OATCも活動を活性化させている。今年5月には、自治体職員や法曹関係者、研究者が連携して行政実務の課題に取り組む、市民サービスと若手弁護士の専門性の向上を目指す「岡山行政法実務研究会」をセンター内に設立。同研究科は総社市と法務分野における連携協力協定を



▲のぞみ法律事務所
組織内弁護士について話す
吉沢准教授

債権回収や建築・不動産関係事件、医療訴訟、離婚・相続問題、不当要求対応、民事介入暴力など、多岐にわたる事案を手掛けた。豊富な経験に裏打ちされた講義は、学生からの人気も高い。平成25年度前期セメスターで刑事訴訟法演習や刑事訴訟実務など5科目を担当。「理論上認められる権利をいかに実現に近づけるか、講義でも常に念頭に置いている」と言い、デイスカッションや模擬裁判も随時取り入れる。

「組織内弁護士」だ。同研究科の附属施設として昨年12月に設置された弁護士研修センター(OATC)では、この組織内弁護士の育成を目的に、司法試験合格直後の新人弁護士や一定の経験を積んだ若手弁護士に専門教育を実施。より質の高いリーガルサービスの習得を促している。吉沢准教授は実務部門を担当し、法律相談から法的手段の選択、実行、依頼人の権利実現という弁護士の基本業務を徹底指導する。

縮結した。実務研修の場としてOATCの弁護士が総社市に定期的に派遣される一方、同研究科が総社市の法的実務支援を行う。法科大学院と自治体の協定締結は全国で初めて。岡山大学を挙げて組織内弁護士を育成する体制が整いつつある。

吉沢准教授自身、これまでも依頼を受けて企業や各種団体内の不正調査に当たってきた。「近年、自治体や企業、医療機関などの組織で内部の法的チェックを強化するところが増えてきた」と言い、岡山ではまだ広がり始めたばかりの組織内弁護士に、若手の新たな活躍の場として期待を寄せる。

岡山大学病院は4月19日、厚生労働省の臨床研究中核病院整備事業の対象機関に選定された。本事業は日本発の革新的な医薬品や医療機器の創出などを目的に、国際水準の臨床研究や難病等の医師主導治療、市販後臨床研究等の中心的役割を担う「臨床研究中核病院」の整備を目的としており、岡山大学病院を含め、国内10機関が選定されている。

岡山大学病院は、今後5年間厚生労働省の補助金を受け、「臨床研究中核病院」として小児・稀少疾患難病等疾患別ネットワークを形成。医師主導治療でなければ実施困難な研究支援や国際水準（ICH-GCP水準）の臨床研究において中心的役割を担う。具体的には、中・四国地方における基幹病院とのネットワーク（中央西日本臨床研究コンソーシアム）を活用し、2000床以上の病院83施設（33,000ベッド以上）で大規模な臨床研究や治験を迅速に実施。薬事開発の規制当局との高度な連携や、薬事承認を目的とした研究を行う人材の育成、日本発の医薬品や医療機器の早期実用、日本国内での医療産業化の加速が求められる。そのため、岡山大学病院は①日本最大

岡山大学病院が「臨床研究中核病院」に決定

厚生労働省の臨床研究中核病院整備事業



臨床研究中核病院に選定された岡山大学病院

級の臨床研究コンソーシアムの基盤強化（メガホスピタル化）、②臨床研究支援人材の育成拠点整備、③臨床研究を国際水準で実施する体制整備、④産業化の促進・社会への還元という4つの課題を設け、社会に貢献できる体制を整備していく。

- 課題
- ① 日本最大級の臨床研究コンソーシアムの基盤強化（メガホスピタル化）
 - ② 臨床研究支援人材の育成拠点整備
 - ③ 臨床研究を国際水準で実施する体制整備
 - ④ 産業化の促進・社会への還元
- アクションプラン
- ① 運営事務局の機能強化
 - ② マルチPI型ネットワークによる活性化
 - ③ ARO機能による研究シーズの探索
 - ④ 人事評価制度の構築
 - ⑤ 横断的人材育成
 - ⑥ レギュラトリーサイエンスコースの開設
 - ⑦ 薬事承認を目指す医師・支援者育成
 - ⑧ 薬事承認申請に向けた体制整備
 - ⑨ データマネジメントシステム充実化
 - ⑩ コンソーシアム内の審査体制の整備
 - ⑪ 医師によるモニタリング体制の充実化
 - ⑫ 企業連携担当、薬事戦略担当の配置
 - ⑬ AROとしてリスクマネジメントプランへ積極的参加と協力



持ち込まれたロシア落下隕石▲

ロシア落下隕石の分析開始！

地球物質科学研究センター

隕石の分類とともに地球に落下するまでの出来事（イベント）が複数記録されていることが分かっていた。各出来事の年代測定や状態の解析などさらに詳細な解析が進められている。同センターは、小惑星探査機「はやぶさ」が持ち帰った小惑星イトカワの微粒子の分析実績がある。今回も最先端の分析装置を結集した「地球惑星物質総合解析システム（CASTEM）」を使用し、新たな発見が生まれることに期待がかかる。

岡山大学地球物質科学研究センター（鳥取県東伯郡三朝町）の中村栄三教授らの研究グループは3月18日、ロシア南部チェリヤビンスク州に2月15日に落下した隕石の分析を開始すると発表した。

同センターに持ち込まれた隕石は直径0.5〜3センチの計19個。同センターのロシア人研究者を通じてロシアのウラル大学とソレフ地質鉱物学研究所に働きかけ、共同研究を行うことが決まった。

同センターでの解析は既に始



▼最先端分析装置を使った分析風景



「猿駒曳」「牛」国内最古の絵馬出土

鹿田遺跡で奈良時代(8世紀後半)井戸跡から出土



▲出土した牛の絵馬（上）と復元図（下）

▲出土した猿駒曳の絵馬（上）と復元図（下）

岡山大学埋蔵文化財調査研究センターは5月23日、鹿田遺跡で奈良時代末（8世紀後半）の井戸から、猿が馬をひく「猿駒曳」と「牛」が描かれた国内最古の絵馬が出土したと発表した。

世紀末の戯画だった。絵馬の出土は国内初で、今回の発見で猿と馬の関係が奈良時代までさかのぼる可能性がでてきた。牛の絵馬は21.5cm×12.3cmの長方形。ひづめなど細部にわたる体の特徴や飾り帯が描かれている。牛の絵馬は国内でほかに3点ほどあるが、その中で最古。絵馬は古くから現在に至るまで神社などに奉納され、平安時代の絵巻にも登場するが、今回出土した絵馬から奈良時代の人々の願いや信仰、習俗について研究を深めることが期待される。



岡山大学病院に総合診療棟が完成

手術件数年間1万件を目指す

岡山大学病院で診療の中核となる新たな総合診療棟が完成し、5月7日から運用を開始した。総合診療棟は中央診療棟と入院棟の間に新営され、鉄骨鉄筋コンクリート5階建てで延べ約1万平方メートル。1階にがんや心臓・血管などの病気を画像に抽出し、病変を確認しながら治療を行うMRIセンター、3、4階に血管造影装置を併設するハイブリッド手術室1室と高度先進医療を担う最新設備を備えた



▲ハイブリッド手術室

手術室を計20室配置。岡山大学病院の平成23年度手術件数は8,642件で、既に国立大学病院の中でも全国5位とトップクラス。総合診療棟の完成を機に年間1万件の達成を目指す。竣工記念式典には文部科学省大臣官房文教施設企画部の長坂潤一技術参事官や県内外の医療関係者ら約100人が出席。森田潔学長が「日本で最高の医療を提供したい」とあいさつし、横野博史病院長が「岡山大学病院の理念を具体化し、高度で安全・安心な医療を提供していく」と力を込めた。臓器移植や小児心臓外科、ロボット手術などの高度先進医療の推進、遺伝子細胞治療などの先端的治療の開発において全国で最も進んだ施設である岡山大学病院は、これからも高度で安全・安心な医療を提供していく。



岡山大学のニュース&トピックスおよび最新情報は岡山大学のホームページからご覧いただけます。

<http://www.okayama-u.ac.jp>

3 March

8日 学会等が制定する賞を受賞した学生を顕彰する「岡山大学学会賞受賞者表彰式」を挙行政

8日 「学生文化奨励賞・学生スポーツ賞」授与式を挙行政

9日 文学部学生が「若山牧水青春短歌大賞」大賞受賞

11日 ハワイ大学関係者が学長を表彰訪問

12日 本学大学院生2人が平成24年度「仁科賞」を受賞

15日 機関申請プログラムの事業推進責任者4人に学長表彰

18日 岡山大学病院に、低侵襲治療の拠点「I・V・Rセンター」が開院

19日 中国の陝西師範大と大学間協定を締結



20日 一般入試後期日程 10月入学国際バカロレア入試の合格者発表

22日 定例記者発表を開催

25日 平成24年度学位記授与式を挙行政



25日 広島県・福山市と寄付講座「小児急性疾患学講座」設置に関する協定を締結



4 April

1日 津島キャンパスのピーチユニオンに、コンビニエンスストア「セブン・イレブン岡山大学店」がオープン



1日 グローバル人材育成院を設置

1日 大学院自然科学研究科に光合成研究センターを設置

8日 平成25年度入学式を開催



岡山大学・大学院の入学式が桃太郎アリーナであり、学部・大学院生ら3,458人が新生活をスタートさせた。



16日 コカ・コーラウエストからスポーツ教育支援金を寄贈される

19日 岡山大学病院が厚生労働省の臨床研究中核病院整備事業の対象機関に選定

20日 岡山大学病院に総合診療棟が完成し、記念式典を開催

22日 本学も構成員となっている国立六大学国際連携機構が、ASEAN大学連合(AUN)とパートナーシップ協定に調印し、AUN加盟13大学と副学長会議を開催

24日 津島地区の陸上競技場東に正課外活動施設を新営・改修し、竣工披露式を開催



25日 定例記者発表を開催

5 May

8日 留学生や学生の交流の場となる言語カフェ「カモエ(エル・カフエ)」を開設



11日 資源植物科学研究所の一般公開を開催

23日 定例記者発表を開催

23日 大学院法務研究科と総社市が連携協力に関する協定を締結

28日 岡山市と「学生の教育・研究に関する協定」を締結



28日 岡山シンフォニーホールと包括的連携・協力協定を締結

6 June

3日 大学院自然科学研究科の秦正治教授が「電波の日」総務大臣表彰を受賞

7日 東日本大震災「学・職・住」総合学生支援制度の共同記者発表を開催

東日本大震災および福島原発事故で進学に支障が生じた受験生に就学の機会を拡大しようとして、本学と岡山市、岡山経済同友会が連携して「学・職・住」の3面から総合支援を行うことを決定。産学官が協力して進めるこうした総合支援は全国でも珍しい取り組みで、特に「職」の提供は全国初。



研究・臨床成果

■大学院自然科学研究科の工藤一貴助教、野原実教授らの研究グループは、122型と呼ばれる鉄系超伝導の基本物質において、電気抵抗がゼロになる超伝導へ移行する温度をセ氏零下228度まで引き上げることが成功した。英国 Nature Publishing Group の電子ジャーナル Scientific Reports に掲載。(3月・定例記者発表)

■資源植物科学研究所の村田稔教授は、モデル植物であるシロイヌナズナにおいて、植物では全く新しいペクターとなる人工染色体の創出に成功した。英国の研究雑誌 The Plant Journal に掲載。(4月・定例記者発表)

■大学院医歯薬学総合研究科の浅川正春教授らの研究グループは、CCN2/CTGFを軟骨特異的に過剰発現するトランスジェニックマウスを作成し、同マウスでは長管骨の伸長が見られることを世界で初めて突き止めた。米国の科学雑誌 PLoS ONE に掲載。(5月・臨時記者発表)

■大学院自然科学研究科の沈建仁教授の研究グループは、植物の光合成において太陽光を利用した水分解・酸素発生反応におけるカルシウムイオンの役割を、タンパク質の立体構造解析により突き止めた。米科学アカデミー紀要に掲載。(5月・臨時記者発表)

■大学院医歯薬学総合研究科の加藤宣之教授の研究グループは、C型慢性肝炎の治療薬であるリバビリンの効き目を決める宿主遺伝子を突き止め、その分子機構を明らかにした。米肝臓専門誌 Hepatology に掲載。(5月・臨時記者発表)

■岡山大学病院の赤木禎治准教授らのグループは、複数個の穴があいている心房中隔欠損症の患者に対し、新しい三次元超音波診断法を用いて安全・確実にカテーテル治療が可能になったと発表。北米心血管イメージング学会雑誌 The International Journal of Cardiovascular Imaging に掲載。(5月・臨時記者発表)

■大学院自然科学研究科の井口勉准教授の研究グループは、新規構造の抗マリアリア活性剤の発見に成功し、その作用機構の一部を究明した。創薬化学専門誌 European Journal of Medicinal Chemistry に掲載。(5月・臨時記者発表)

■大学院医歯薬学総合研究科の浅田騰大学院生、谷本光音教授らの研究グループは、骨を構成する「骨細胞」が、すべての血液細胞の元となる造血幹細胞の機能制御に関与していることを動物実験で世界に先駆けて明らかにした。米科学雑誌 Cell Stem Cell に掲載。(5月・臨時記者発表)

■異分野融合先端研究コアの佐藤伸准教授らは、メキシコサラマンダーなどの有尾両生類で四肢を再生させることのできる3因子を世界で初めて発見した。米科学雑誌 Developmental Biology に掲載。(6月・臨時記者発表)

■大学院環境生命科学研究科の奥田潔教授らの研究グループは、初期胚輸送に必須であるウシ卵管のプロスタグランジン分泌に、夏場の高温環境が悪影響を及ぼすことを明らかにした。英国の生殖科学誌 Reproduction に掲載。(6月・臨時記者発表)



世界で活躍する人材育成へ 「グローバル人材育成特別コース」新設

◀「グローバル人材育成特別コース」の授業風景

岡山大学は国際化に対応し、世界で活躍する学生を育てるため、平成25年4月、「グローバル人材育成特別コース」を新設しました。全国の大学でグローバル人材育成の様々なプログラムが立ち上げられています。本学の特長は、高度な専門科目を学ぶことと、語学力などグローバルな素質を磨くことを両立させていることです。

毎年入学直後に、全11学部及びマッピングプログラムコースの新生の中から、一定の語学力を持ち、国際的な活動や日本文化・地域社会への深い理解を踏まえた異文化交流に意欲ある学生を選抜します。コース科目は、大きく分けて、海外留学による単位履修と国内でのコースワークで構成。履修生はまず、世界の若者と十分議論ができるよう、英語力・コミュニケーション力を養成するための特別集中カリキュラムで学び、春・夏休み期間などを活用し、海外の大学等に約1カ月間語学研修留学体験を行います。また、世界で渡り合うには異文化・日本文化理解力、英語による専門分野理解力などが必要で、こうした資質はコー



グローバル人材育成について意見交換する森田学長とコース生ら▶

スワークを通じて深めます。その後、数カ月から1年間の留学を行い、世界に通用する語学力と人間力を身につけます。留学をしても、基本的には規定の年限で卒業できるようプログラムされています。同コースの新設にあわせ、各学部などと連携し、学生の教育やコース運営を担当する学内組織「グローバル人材育成院」を開設しました。5月29日に行った看板上掲式では、森田潔学長や荒木勝育成院長らが学生に、「世界に通用する積極的で発信力のある人材に育つて」と激励の言葉をかけました。初年度（平成25年度）は53名が同コースを受講しています。

編集後記

今号より、社会文化科学研究科の原田先生に副編集長をお願いすることとなりました。原田先生にはご着任早々、今号の学長インタビューにご参加いただきました。これより2年間よろしくお願いいたします。

実は本誌の編集長と副編集長という役目、2年ほど前に私と林先生がお引き受けした時にはどういった経緯か、任期はいつまでかなど、全そはつきりしないまま、両名が所属する部長に指名され、任に就いたという状態でした。今回、林先生のご転任を機に、編集長、副編集長共に任期は2年で、部局持ち回りで担当するというルールになりました。ただし、本年度に私も交代すると引き継ぎができなくなるため、私はあと1年居残ることとなりました。その結果、森田学長の現在の任期と同じ期間の任期となりました。森田学長が岡山大学の進むべき道を示し、その実現のために重ねてこられたいろいろな「仕掛け」には及ばないとは思いますが、残った任期でいよいよ並木がさらに皆さんに読んでいただける広報誌となる工夫をしてみたいと思います。

工学部教授 ● 後藤 邦彰

所属部局の情報・宣伝関係委員を担当している縁で、本誌の副編集長に就任することになりました。岡山大学に赴任してからは、周りの方々の配慮もあり、教育・研究に専念することができました。約5年が経過した現在、一構成員として、大学という組織・制度に関する課題にもより関心を持つべき時期がきたともいえますので、これを機に、その現代的課題とそれに対する岡山大学の取り組みに関する情報を収集し、皆様に発信するとともに、自らの視野を広げていきたいと思っております。

法学部准教授 ● 原田 和往

今回の特集は、キャンパス整備の在り方をテーマとするものであり、目に見える変化を伴うという点で、私のような若輩者にも容易に大学としての取り組みを理解することができました。また、編集長の後藤先生と学長のやり取りを通じて、その基礎を為すビジョンについて理解を深めることができました。美しく気品あるものへと生まれ変わるキャンパスのように、私も見聞を広め、成長していきたいと思っております。

Postscript by the Editor